

平成28年度石油製品需給適正化調査 石油製品価格モニタリング事業 (離島地域実態把握調査)

調査結果

平成29年5月25日

株式会社 日本能率協会総合研究所

【焼尻島・天売島の概要】

- 焼尻島・天売島は北海道苫前郡羽幌町にある離島。各島にはSSが1か所ずつ営業。
- 人口は焼尻島が209人、天売島が318人（平成28年3月末時点）で、各島とも全国の1SS当たり平均人口3,927人（SS数は平成28年3月末時点、人口は4月初時点）に対して1/10以下の人口規模となっている。
- 羽幌港からの所要時間は高速船で羽幌港～焼尻島35分、羽幌港～天売島1時間5分。

【焼尻島・天売島の石油製品販売の概要】

- 北るもい漁業協同組合の焼尻支所・天売支所が各島で唯一のSSを運営しており、組合員に限らず、島民全体に石油製品の販売を行っている。
- 各島内にはガソリン・軽油のSS地下タンクが整備されていないため、ガソリン・軽油は本土からドラム缶で仕入れている。ドラム缶は羽幌港でパレットに積みられ、旅客フェリーで各島に輸送。ポータブルタンク給油機で車両や重機等に給油される。
- 北海道のため灯油は冬期を中心に需要が多く、タンクローリーで本土から仕入れ、各家庭のホームタンク等に配達販売を行っている。その他、漁船向けのA重油の販売も行っている。
- 需要家の一部は、本土のSSからドラム缶単位で石油製品を購入するケースもある。



出典：羽幌町観光協会HP



北るもい漁業協同組合 焼尻給油所の給油設備（ガソリン・軽油ポータブルタンク）



天売港で積み込まれるのを待つ空ドラム缶（パレットのままフォークリフトでフェリーに積み込まれる）



本土羽幌港と焼尻島・天売島を航海する羽幌沿海フェリーの旅客フェリー

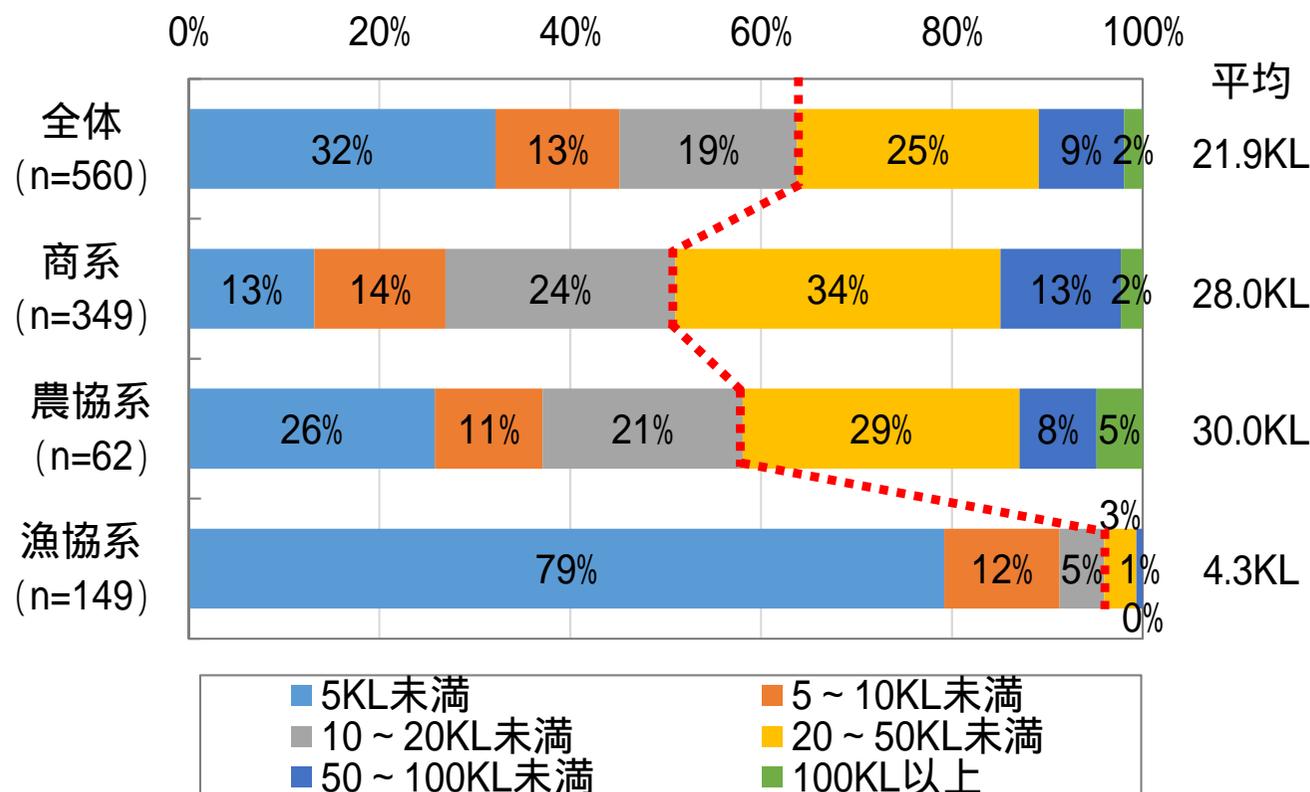
【SSアンケート調査の実施概要】

- 離島に所在し、ガソリンを販売している給油所を対象にアンケート調査を実施した。
- 調査時点は平成29年1月。
- 配布数は657SS、回収数567SS、回収率86%。

【離島SSの月間販売量】

- 離島SSのガソリン月間販売量は20KL未満が過半数を占めている。
- 特に漁協系給油所で月間販売量の少ないSSが多く、平均で4.3KL。

【経営形態別の月間販売量】

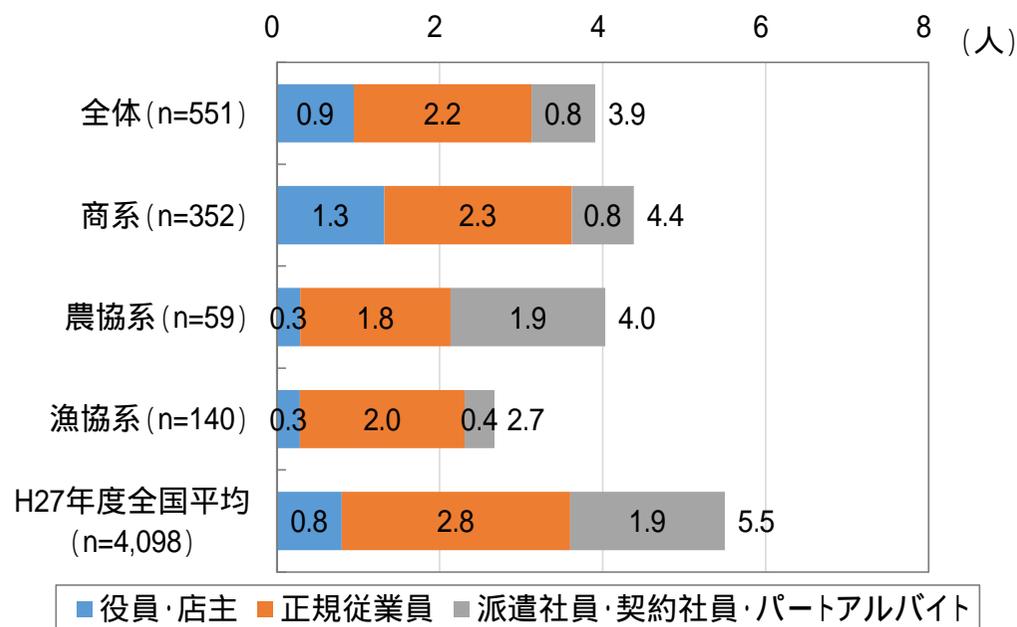


注：アンケート回答から無回答は除外して集計した。

【離島SSの従業員数・人件費】

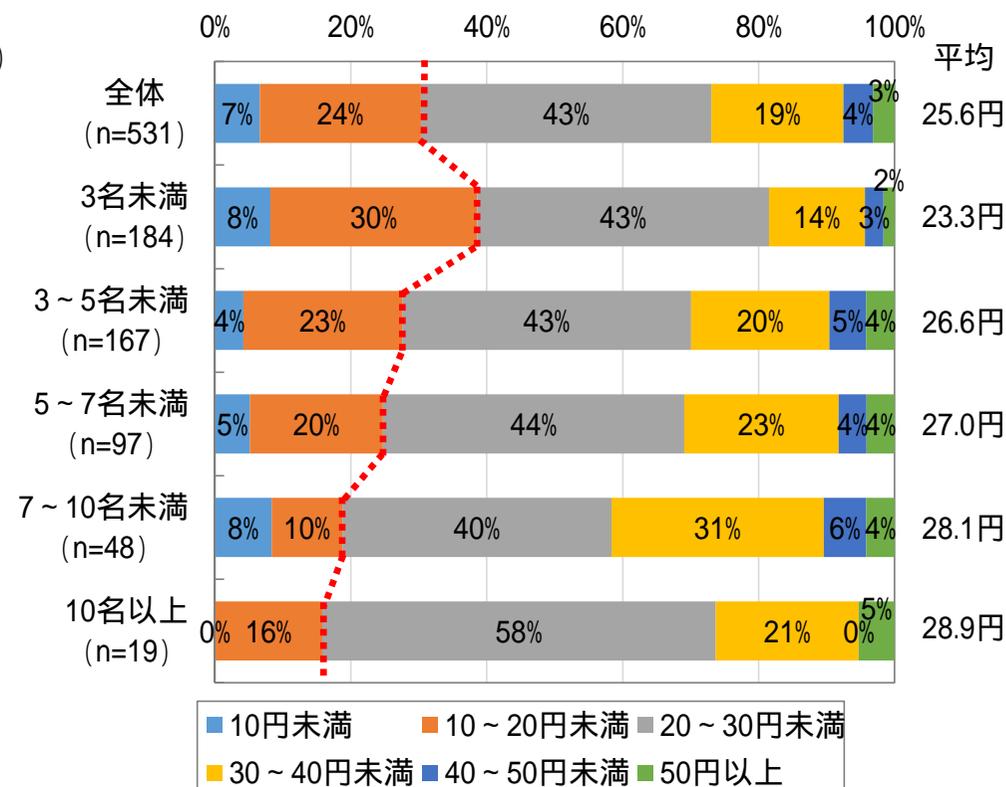
- 離島SSの従業員数は全国平均に比べて小規模。ただし、役員・店主・正規従業員の割合は高い。
- 特に商系給油所では役員・店主・正規従業員数は合計3.6人と、平成27年度全国平均と同数。
- 離島SSの小売マージンは全体で20円以上が約7割を占めており、従業員規模が大きくなるほど小売マージンが高い傾向にある。
- 販売量が少ない一方で、役員・店主・正規従業員数が多く、人件費の影響により小売マージンが高くなっている部分もあると考えられる。

【雇用形態別のSS従業員数の全国との比較】



注：アンケート回答から無回答は除外して集計した。
 出典：全国の数値は「石油製品販売業経営実態調査報告書（平成28年度調査版）」（一般社団法人 全国石油協会）による。

【SS従業員規模別の小売マージン】

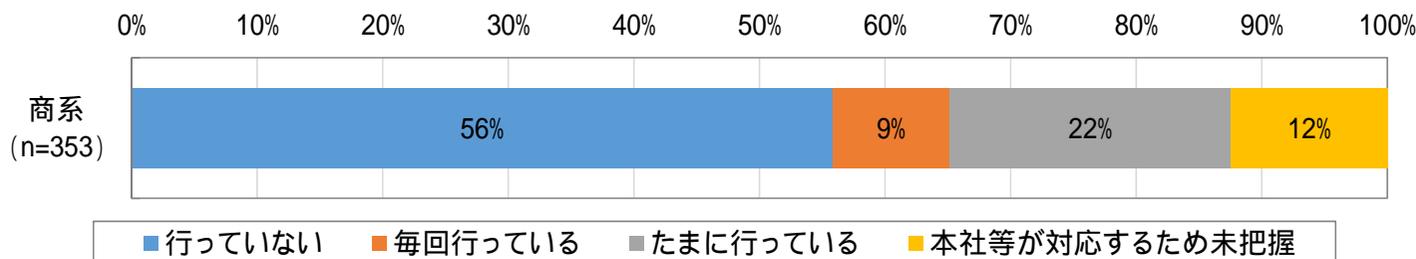


注：アンケート回答から無回答は除外して集計した。

【値引き交渉の実施状況】

- 値引き交渉を「行っていない」商系SSは56%と過半数。全国平均（特約店、「調整なし」は49%）に比べて値引き交渉を行っていないSSの割合が若干多い。
- 離島SSは販売量が少ないこと等により値引きが行われ難いと考えられる。

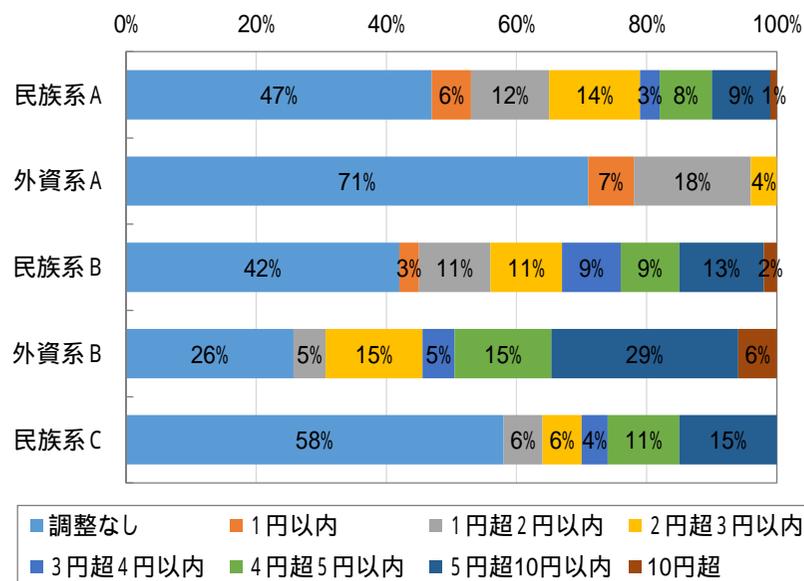
【仕入先との値引き交渉の実施有無】



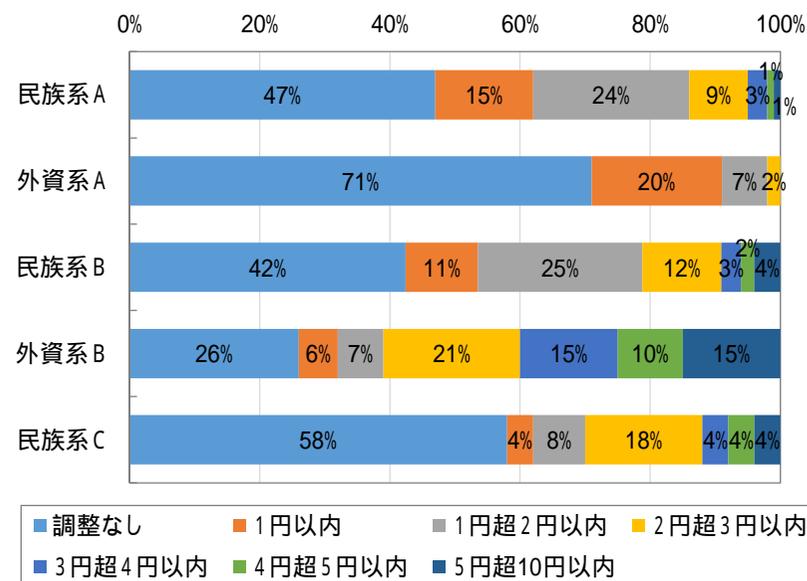
注：アンケート回答から無回答は除外して集計した。

【元売別 2015年7月以降の交渉による値引き幅（レギュラーガソリン）】 各社とも特約店のみで集計

元売別支援を受けている事業者における調整額の最大値



元売別支援を受けている事業者における調整額の平均値



出典：「石油精製・流通研究会最終報告書」（資源エネルギー庁）